

胃がんより大腸がん増加

消化器がん

Q 消化器がんの症状
は。消化管の食道、胃

小腸、大腸と肝臓、胆のう、すい臓のがんがあります。最近では、胃がんよりも大腸がんの増加が問題になっていますし、がん化することの多い肝臓のウイルス性肝炎(C型肝炎)も注目されています。全身の倦怠感や食欲不振などが症状ですが、症状が出る前に早く見つけて、がんが小さい

愛生会山科病院
副院長

西田 康一氏



うちに早期治療することが大切です。特に大腸の腫瘍(ポリープ)は、現時点で良性であってもがん化する可能性が考えられ、大腸内視鏡や便潜血検査を行うことをお勧めします。

Q 生活習慣との関係

A 大腸がんが増えている背景には、脂肪分の多い欧米化があると考えられています。また、胃がんに関与するヘリコバクター・ピロリについては、衛生状態が悪かった時代に経口感染した人が多かったのですが、近年は積極的に除菌対策が行われており、胃がんの減少が期待されます。

Q 早期発見の技術

A レントゲン検査は被ばくの問題とモノクロ写真での診断なので受診率は少なくなっています。検査にはCT、MRI、PETなどがありますが、最近では食道、胃、大腸の検診はまず内視鏡検査を行うようになっていきます。検査は年1回をめぐりに受けていただくことをお勧めします。すい臓がんについては胃の裏側にあるので早期発見が難しいのですが、検査方法の進展に加え、効果的な薬物療法も出てきています。